

**少年の一人遊びから生まれた
熱きファイターたちの物語**

自分で描いたキャラクターの絵をハサミで切り抜くと、キャラクターに三次元の命が宿った。その衝撃を受けて安居さんが紙製ロボットづくりを始めたのは、小学校低学年のときだった。最初こそ針金人形を紙で肉付けした単純なものだったが、やがて紙でつくったパーツを針金で結び形に変わり、果てには肩・脚・肘・膝・手首・足首の関節が動く本格仕様になった。小学5年生のときから夢中になったプロレスと合わせ、持ってぶつけて戦わせて遊べる紙製ロボットフィギュア・カミロボが誕生した。

「カミロボファイト」は、安居さんが幼少期からカミロボづくりととも

巻頭特集 世界も認めるクール・ジャパン・コンテンツ

カミロボ

カミロボをご存知だろうか。彦根市出身の造形作家・安居智博さんが生み出した、手足の細かい関節まで動く紙製のロボットだ。しかし、カミロボは安居さんの手の中から飛び出た瞬間からひとりて成長・成熟し、独自の世界を生きていく。ただのおもちゃにとどまらない、深きカミロボの世界がそこにある。

遊びを世に発表していいのだろうか? という疑問を拭えずにいた。そこに来場した一人の少年が「僕もカミロボつくったよ」と、持参した自作の紙製ロボットを見せてくれたことで、ようやく安堵の気持ちに満たされた。

その後も続々と「自分も小さいときにつくっていました」との声が届いた。発表を重ねることに寄せられる、共感と称賛の声。2006年には、アメリカの代表的な週刊誌「ニューズウィーク」の日本版で「世界が尊敬する日本人100」に選出。2008年には高校美術の教科書に載った。海外の展覧会にもたびたび招待されるなど、その人気は海をも渡るほどだ。

**戦わないカミロボも登場
コンテンツを楽しもう**

近年、安居さんの作品に変化が生まれつつある。カミロボ制作技術を生かし、生活雑貨や市販菓子の包装紙などを使ったフィギュアを手掛け、SNSで発表するようになった。「昔のカミロボは、『つくるぞー』となっていたときの初期衝動をそのままに完成させてしまうことがほとんどでした。発表前提の作品づくりが増えてきた今は、じっくりとデザインを考える機会も増えました」と、安居さんは状況の変化を語る。

区切りとなったのは、2014年に公開となった「カミロボプロレス

に構想してきた、カミロボ界のプロレスストーリーだ。10を超えるプロレス団体があり、100体以上のファイターが所属。団体ごとに歴史とカラーがあり、ファイターごとに個性とファイトスタイルがある。価値観も目的もさまざまな強者が集まれば、不和や因縁が生じ、バトルへと発展する。バトルはすべて安居さんの両手をもって展開される。圧倒的な力量差があっても、リングの上ではどんな番狂わせが起こるかわからない。紙ゆえに脚が裂け、腕がもげることもある。勝負は必ず、どちらかのファイターがリング上に立っている状態で決する。そして新たな抗争や因縁、師弟愛、友情などが生まれ、次のバトルへとつながっていく。

これらはすべて安居さんの頭の中



2006年4月にロンドンにあるICAギャラリー(現代美術館)で展覧会を開催した



造形作家 安居智博さん

彦根市出身。米原高等学校卒業後、京都で美術を学び、やがて特權やプロレスの造形に携わるように。1997年からフリーランスとなり、フィギュア原型、プロレスマスク・着ぐるみ制作、キャラクターデザインなどを幅広く手掛けている。最近カッコイイと思ったモチーフは井伊家の甲冑。「地元である彦根で何か作品づくりに携われたらうれしいです」と地元愛を語る一面も。

information カミロボのすべてが見られるウェブサイト
カミロボドットコム <https://www.kami-robo.com>
 最近の作品はTwitterをチェック! @kami_robo_yasui
 カミロボファイト全80試合公開中。団体&ファイター一覧とその相関図、人気投票ランキング、カミロボの作り方など。動画コンテンツも充実!(本誌の表紙をフリモARでかざすとカミロボファイトが一試合まるごと見られます)

30周年記念大会」だった。同大会では、カミロボプロレス界の源流ともいえる「マドロネック」一門と、カミロボプロレス界の最大勢力団体「マックスリーグ」のファイターたちが集結し、オールスター戦ともいえる壮

で構築され、安居さん宅のリング上でのみ展開されてきた、いわば「一人遊び」だった。それが世に出るきっかけとなったのは、広告分野で活躍するクリエイティブディレクター・青木克憲さんとの出会いだった。

**世に飛び出たカミロボ
共感と称賛が相次いだ**

もより親しい友人や知人にしか明かさない趣味だった。しかし仕事を通じて青木さんとの付き合いを重ねるうちに、「この人にカミロボの世界を見せたらどうなるのだろうか?」という興味も湧き、思い切って打ち明けると、予想だにしていなかった提案が返ってきた。「これはおもしろいね。ぜひ発表したほうがいい」

「最初は恥ずかしかったですね、

バードマン

マドロネック軍に対抗するために結成されたエンターテインメント軍団・マックスリーグに立ち上げから参加。成長を重ね、大物スターの一人となった



昔も今も、遊びでつくっているときの気持ちを大切にしています。

最近の作品

アマビエ

タレピン(醤油の容器)をアマビエに見立てた安居さん作によるCG作品。コロナ禍で鬱屈した世間にならずながら感動と笑いをもたらした



ぷかぷかアヒル

100円均一ショップで売られているアヒル人形5匹のパーツを分解して再構築したこの作品はTwitterでバズり、多くのメディアで紹介され、世間の注目を集めた



ワカバン

初心者マークを切り取ってつくられたカミロボ「ワカバン」。カミロボのボディは紙だけに限らない

絶なバトルを繰り広げた。安居さんは、自身の内側の部分(一人遊びで完結していたカミロボへの矜持)を前者に、外側の部分(そんなカミロボを世に公表すること)を後者に投影し、バトルの行く末を見守った。勝負は決し、両者の間に熱き絆が生まれた。その様子は、安居さんが長年抱えてきた葛藤に折り合いをもたらした。自分の内側と外側の感情を合わせられるようになったのだ。

紙製にこだわらない新たな作品群は世間の注目を集め、メディアでたびたび取り上げられた。見た目は、リング上で大活躍したファイターたちとは別物。しかし、根底にあるものは同じだ。「昔も今も、遊びでつくっているときの気持ちを大切にしています。それがカミロボのベースなので、最近の作品もカミロボなんです」。自身の手を離れて成長していく作品を等しく見守るその瞳は、わが子と思う親のように優しい。

ザ・オーレ
豪快なやられっぷりと社交的な性格で負けながらに評価を上げ、マックスリーグ移籍後にチャンピオンに。空の呼べるレスラーとして不動の地位を築いた

ココナッツ・クレート
ちびっ子に大人気の心優しいファイター。怒りのエネルギーをためるとマスク下の素顔が現れ、30秒だけ無敵の強さを発揮。マスクを閉じられると終了するのが弱点

ザ・タガー
ストリートレスラー軍団の元リーダー。脱退後に新天地デスリングスへ移籍し、新たなファイトスタイルを確立して人気者に。モチーフは多賀名物の糸切餅

魔王
マックスリーグ立ち上げ時のオーナー権獲得マッチに勝利し、団体オーナーに。カミロボ黎明期には魔神を名乗り、子分のブルーキラーとタッグを組んで活躍した

フジヤマ
マックスリーグでデビュー。提携関係にあるナイトコブラジムのシャークホークとタッグを組んだ後の活躍はめざましく、今ではバードマンやオーレに挑戦するまでに



(左)2010~11年にかけて、メキシコ国立自治大学付属チョボ美術館でカミロボ展を開催。現地のファンからクール・ジャパンへの敬意を込めて「ジャパニースオタク!」との称賛を浴び、「ありがたいけど複雑な気持ちでした」と安居さん。(右左)当初はロボットアニメのような宇宙が舞台だったが、安居さんがプロレスに魅了されたからはプロレスリング上がカミロボの戦場。細かな関節があるため多彩な技の再現が可能で、紙ゆえに思い切りぶつけて遊べるどころがプロレスとマッチした(右下)「カミロボファイト」は30周年ファイトで一区切りを迎えた。以降はコンテンツでの動きはないものの、「今もきっとあの世界では何か動いているのでしょ」と安居さんは語る

